

就活応援

教えて！中小企業

①

植垣米菓 (神戸市長田区)

植垣 清貴社長

200年後視野に商品開発

看板商品は、発売から80年を越えたロングセラーの「鶯ボール」。もち米に小麦粉をまぶして揚げ、甘辛く味付けしたかりんとう風のあらは、関西のお茶の間にすっかり浸透した。1907 (明治40) 年の創業以来、あられやおかきの米菓一筋を貫く。

「植垣米菓といえば「鶯ボール」ですね。

「他社にはない商品を持っているのが最大の強みです。大半は関西で売っていますが、最近『神戸発』の土産としても認知され、東京の百貨店などでも需要が出てきました」

「当社の商品は70種類にも及びます。例えば、有機あられのシリーズは欧米への輸出が好調ですが、国内はまだまだ。看板商品の販売を強化しつつ、会社の社会的な使命としての商品づくりも大切にしています」

—その使命とは。

「50年後、さらには200年後の子孫のことを考えられる会社を目指しています。できるだ

け添加物を使わずに、兵庫県産の米や食材を使う。酒米の栽培が盛んな県内地域でも、もち米を作る農家が少しずつ増えています。その米を使うと約束すれば、若い人の就農にもつながりますよね。子どもたちに味を覚えてもらい、年を取ったときに『懐かしい味』だと感じてほしい」

—求める人物像は。

「素直で謙虚で明るく、『自分分は運がいい』と思える前向きな人。責任感を持ってプロの技術を身につけてもらいたい。今、

鶯ボールなどの商品をいかに若い世代に食べてもらうかを考えているところです。従来の習慣に縛られることなく、新しい感性を大切にしてほしいと思います」

(まとめ・石沢菜々子)

兵庫県内の中小企業と大学生の就職マッチングを支援する「Mラボ事業」(神戸新聞社など主催)の一環として、学生と一緒に企業を訪ね、経営者にインタビューしました。就職活動の一助にしてください。



商品への思いを語る植垣清貴社長(左)
—加古川市平岡町(撮影・峰大二郎)

取材を終えて

工場を「工房」、商品を「作品」と呼び、材料からこだわった丁寧な製品づくりに感動した。200年後の子孫や地球

環境に配慮して行動しようという企業姿勢を、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思った。

(武庫川女子大3年・川田恵)

